

こころのソムリエ（認知行動療法）

10月よりセントラルパークにてこころのソムリエ（認知行動療法）第5クールを実施します。希望者が多数あり若干名の枠しか残っていません。ご希望の方は、精神保健福祉土宮崎までご連絡ください。

【休診のご案内】

ひだクリニック：土曜・祝日 休診

ひだクリニックセントラルパーク：水・日曜日祝日休診

*セントラルパーク：9月17日～20日9月23日（土）

急に具合が悪くなった場合は、主治医がいなくても応急対応をいたしますのでご相談ください。休診の場合は、空いている方のクリニックで対応いたしますので、まずは、お電話にてご連絡ください。自立支援は登録医療機関のみご使用になれます。



【ご案内】

日曜日の家族教室は、ひだクリニック3階るえかホールにて行っております。

9月15日（金）19時～20時半 ナイトリワーク ひだクリニック

9月17日（日）10時～12時 家族 SST

9月20日（日）14時～16時 サイコドラマ

9月24日（日）10時～12時 心あみりーテーブル基礎講座

「家族として病気と向き合うために」木村尚美副院長

10月 1日（日）10時～12時 「べてる式家族当事者研究」

10月 5日（木）18時～20時 クローバー土屋 SST（ひだクリニック）

10月 8日（日）10時～12時 わいわい講座 肥田院長

10月14日（土）認知行動療法フォローアップ講座 セントラル



【編集後記】

雨の多い夏でしたね。皆さんは楽しい夏をお過ごしでしたでしょうか？私は、せっかくの夏休み、腰痛で身動きできず過ごしてしまいました。日ごろの運動が大事だと痛感いたしました。スポーツの秋と行きたいものです。（み）

そらむぎ

ひだクリニック
<http://www.hida-c.com>
 ひだクリニックセントラルパーク
<http://www.hida-centralpark.com>

お仕事したい人この指とまれ！！

「仕事したい」「働きたい」そんな風に思っている方に朗報です。仕事したいけど、どうやって見つけたらいいの？働きたいけど、働けるかなーなど、仕事がしたいと思ってもなかなか現実には難しいことが多々ありますね。

ひだクリニックの外来にて『就労相談窓口』ができます。この『就労相談』では、仕事ができる準備状態にあってもなくても「働きたい」と思っている方ならどなたでも相談することができます。ご相談料は無料です。相談を担当するのは、就労移行支援事業所コパスの管理者の新井紀邦さんが担当します。

新井さんにお話を伺いました。



ご相談を受けながら、土台作りからのトレーニングが必要な方には、土台作りのトレーニングへ、就労訓練が必要な方には、就労訓練へ、もう就労の準備状態が整っている方には、ハローワークへと必要な段階をアセスメントし、ご案内します。また、就労移行支援事業所を利用していただくことで、職場に定着できるまで就職後も定着支援として、サポートを続けて提供することができます。

就労移行支援事業所「コパス」では、2年間の中で、会社形式の事務作業を中心とした訓練を行い、自主的に動けるようになることを目指します。現在もたくさんのメンバーが10時から16時半まで週5回訓練を行っています。



もう就労準備が整っている方には、「ベイマックス」というサービスがあります。ハローワーク専任のトータルサポーターが担当し、半年1クールで2週間に1度、マッチングを考えた求人を探したり、面接や、履歴書の書き方など細かいサポートを受けることができます。

いろいろと提供できるサービスがあるので、ぜひご利用いただきたいですね。また、水曜日からスタートし、需要に応じて相談日も拡大したいと話されていました。

ひだクリニック、セントラルパーク、事業所いずれの方もご利用可能です。ぜひ、気になる方は、ぜひ一度ご相談してみたいかですか？

<就労相談>

時：毎週水曜日 10時～12時

場所：ひだクリニック外来

費用：無料 詳しいことは外来スタッフにお尋ねください



宙麦会&MARS スタッフのバトンリレーのページです。

今月は、デイケアるえかの笹川さんです

そらむぎをご覧の皆様、季節も秋に入ってきましたがいかがお過ごしでしょうか！？

2016年の4月から、ひだクリニックのデイケアRUECAで作業療法士をしております、笹川裕蔵(ささかわゆうぞう)です。この度は外来の比嘉先生からバトンを受けまして、簡単ではありますが自己紹介をさせていただきます。私は東京都の出身で、ひだクリニックには専門学校時代に臨床実習でお世話になった経緯もあり、ご縁もあってこちらでお世話になることになりました。ひだクリニックに来る前は精神科ではなく、急性期の総合病院で3年間作業療法士をしており、主に脳血管障害により片麻痺を呈した患者さんを対象に、身体領域のリハビリテーションを行っていました。リハビリ職に携わる前には不動産会社で営業をしていた経験もあり、作業療法士としては、少し特殊な経歴を持っているのではないかと思います。さて、RUECAでは、るえか式心理教育をベースとして、SSTや当事者研究、WRAPなどのプログラムの他、季節毎のイベントや自助グループなど、たくさんのプログラムがあります。プログラムの様子については『今日のるえか』というブログにて、日々ご案内しておりますので是非ご覧になってみてください。デイケアにいらした際には、背の高い男性スタッフがいたら私ですので、お気軽にお声かけ頂ければと思いますので、宜しくお願いします。

次回はひだクリニックのデイケアRUECAで事務をしております
小林さんにバトンをお渡ししたいと思います。





肥田先生のメディカルコラム Vol.80

～ 「精神科デイケアとは何か。精神科デイケアの本質とは何か」

～その16～

集団を考える上での3つの大原則——これを『治療共同体を超えて—社会精神医学の臨床—』(岩崎学術出版社)という本から引用しました。再掲載します。

- 1) 上から下へのコミュニケーションの有害性
開かれた双方向性コミュニケーション
- 2) 1人のリーダーに依存しない。
多くの人々が、リーダーとして参加。
全員一致の意思決定システム
- 3) 成熟は痛みを伴うコンフロンテーション
変革を志向する治療文化こそが重要

1の上から下へのコミュニケーションの弊害というのは、簡単に言うと、権威を持っている人が持っていない人、治療者が患者さんに向かって一方的にコミュニケーションを取ることの弊害です。これは気をつけていますが、私たちはいまだにやっているかもしれません。患者さんの方からでも言える、言っても批判されない、一方的ではない、双方向のコミュニケーションがあることが大切だということです。

2は言うのは簡単ですが、実際にやるのは難しいかもしれません。それから、私が一番大切だと思うのは3です。人が成長するということは、嫌なことも含めていろいろなことに直面化しなくてはならないということです。

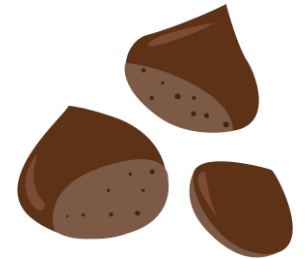
何か新しく変えようとか、変わっていこうということを希望している、志向している治療文化こそが大切です。変わることを恐れているような治療の共同体はどうか、ということになります。

私たちは変わらないことに対して、すごく安心感を持ってしまいます。逆に言うと、変わることに恐怖感を持っているのです。それに対して治療共同体を考える場合には、そういうところを克服しなくてはいけないということが書いてあります。若干古いと思われるところもありますが、概念として、変革を志向する治療文化こそ重要なのです。

この「そらむぎ」がメール配信にてお読みいただくことができます。

ご希望の方は、宙麦会のホームページ、homeの下に進み、そらむぎ通信にアドレス登録をしてください。

配信はしなくても、ホームページよりご覧いただくこともできます。



<リワークプログラム実施中>

現在職場に在籍しており、復職を目指している方向けには、リワークプログラムを毎週火曜日に行っています。

職場復帰を目指している方は、就労相談窓口でなく、リワークプログラムがご利用いただけます。